



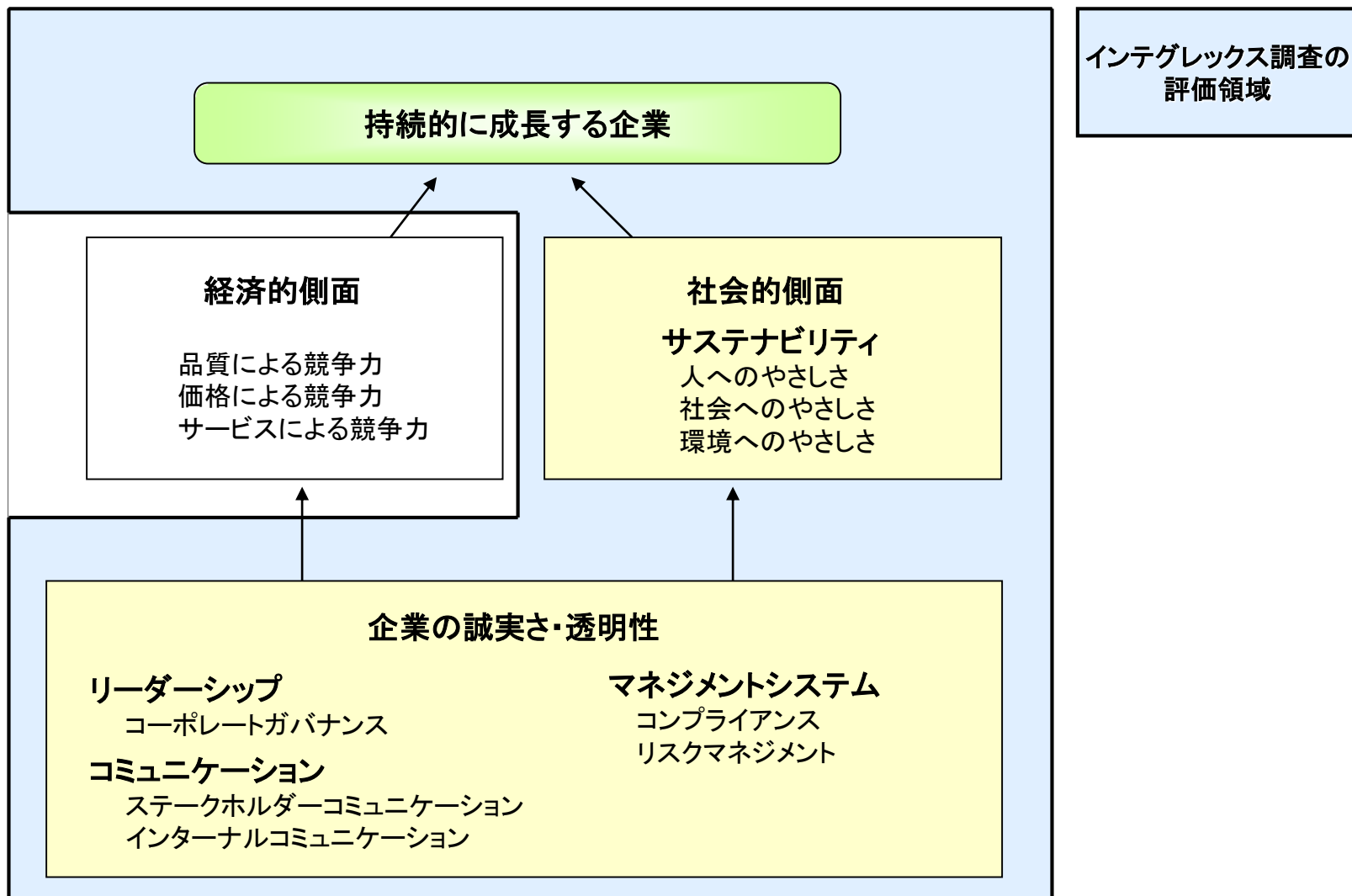
インテグレックス調査の考え方

2018年
株式会社インテグレックス

インテグレックス調査の目的

- ・ 投資家が長期的に安心して株式（投資信託）投資のできる仕組みをつくること
- ・ 資本市場を通じて、誠実で責任ある経営を行う企業を応援すること
- ・ 結果として、サステナブルな社会づくりに貢献すること

インテグレックス調査の評価領域



評価のベース（ECS2000とR-BEC001）

「ECS2000」(Ethics Compliance Standard)は、PDCAサイクルに基づく倫理コンプライアンスのマネジメントシステム規格。「R-BEC001」は、それをもとに作成された倫理コンプライアンスへの取り組みを調査するための、膨大な設問集を含む包括的な枠組み。

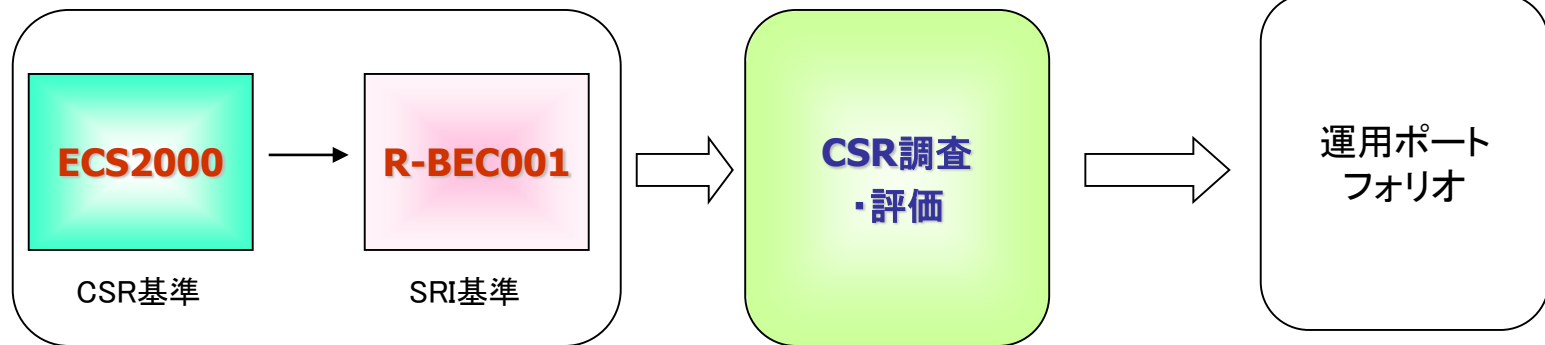
共に、麗澤大学 企業倫理研究センター(センター長 高巖教授(当時))を中心とした有識者によるプロジェクトチームによりまとめられた。

高教授は、CSRの規格化を決定したISOの高等諮問委員会(HLAG)に日本を代表して参加した。

麗澤大学 企業倫理研究センターを中心とする
有識者によるプロジェクトチーム

当社

運用会社



ECS2000、R-BEC001を基に質問票を開発
企業調査・評価を実施

調査について

調査方法

質問票および公表情報による調査

公表情報(サステナビリティ評価)は

企業ウェブサイト、CSR報告書、統合報告書、アニュアルレポート等を使用

質問票

・「MS」 = CSRのマネジメントシステム(MS)について

・「TOP」 = 社長/最高経営責任者宛

・新たなESG(環境・社会・ガバナンス)課題の質問票

(社会的要請に応じた時宜にかなった評価のため)

「社会との融合」: 2012~2014年度、2017~2018年度 実施

=2017~2018年度は「社会的課題の解決」「働き方改革」について

「海外腐敗防止」: 2015~2016年度 実施

評価

MS + TOP + 新たなESG課題の質問票 + 公表情報

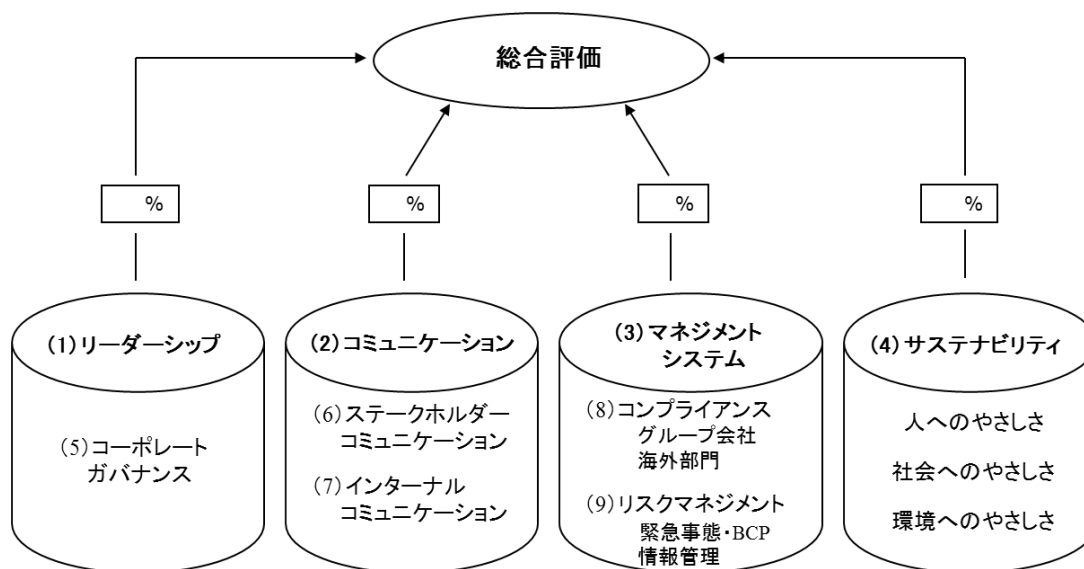
(「MS」が評価のベース)

評価において重視するポイント

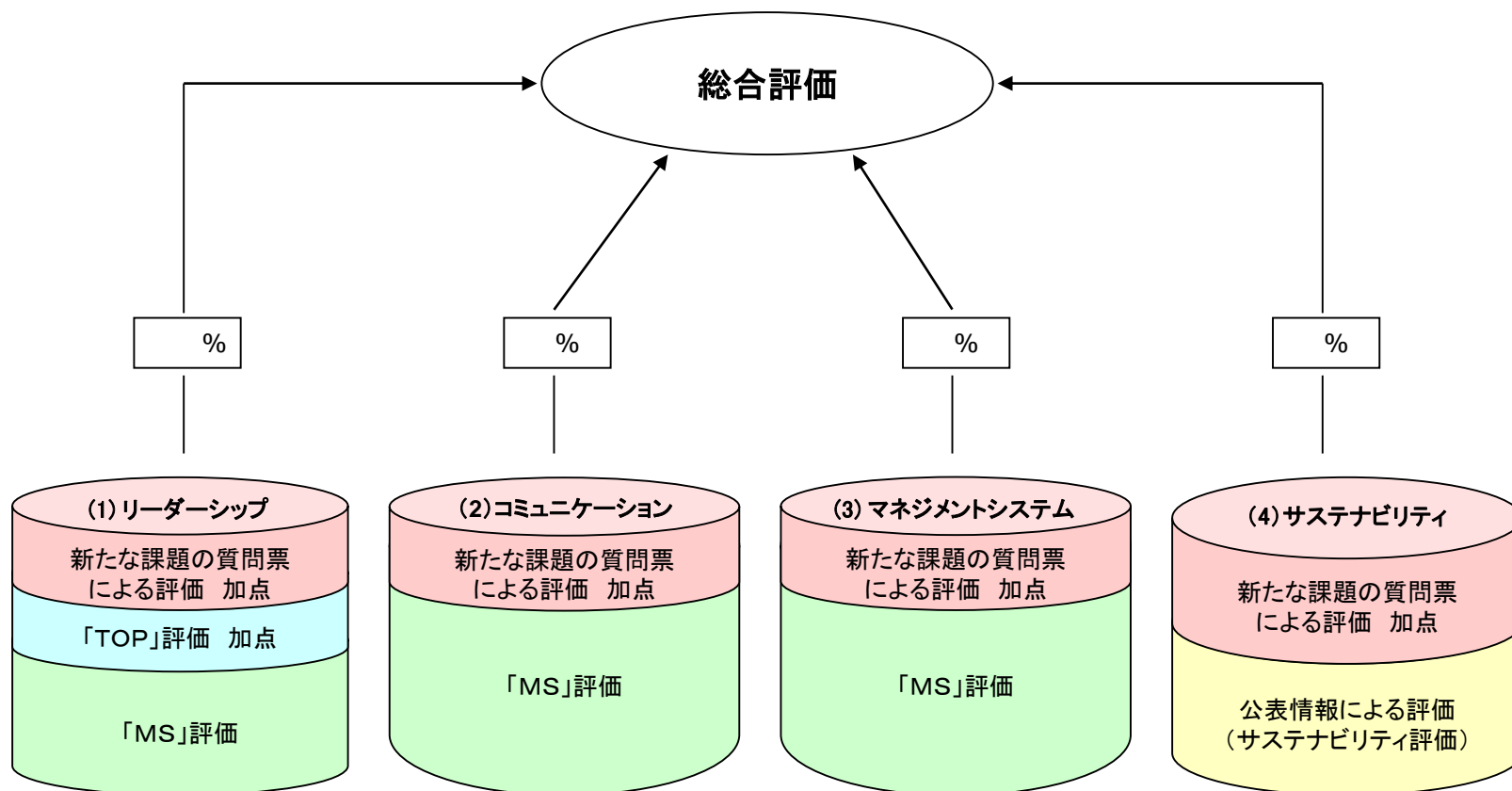
総合評価 以下の(1)、(2)、(3)、(4)に基づく総合評価

項目別評価

- (1) リーダーシップ — 経営トップは、企業の理念に基づく規律ある経営を行い、企業活動を通じて持続可能(サステナブル)な社会の建設に努めているか
- (2) コミュニケーション — 企業としての説明責任が重視され、社内および社外への透明性は十分に高いといえるか
- (3) マネジメントシステム — 倫理・コンプライアンス体制が十分に確立され、法的リスクのみならず社会的リスクをコントロールし、発生したリスクへの対応に関して十分な体制が構築されているか
- (4) サステナビリティ — 社会への誠実さ(インテグリティ)を高め、社会・地球環境の持続可能性(サステナビリティ)の維持に貢献しているか



評価モデル図



一円融合

二宮 尊徳

「一円融合」は、二宮尊徳の報徳思想にある考え方です。この世で相対するものは、すべてが互いに働き合って一体となっている。だから別々に切り離して考えるのではなく、一つの円の中に入れて見る。その一つの円の中で、すべてのものが互いに働き合い、一体となったときに初めて結果が出るというのが「一円融合」です。